

学校名 (児童数)	江津市立跡市小学校 (17人)
------------------	-----------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：島根県江津市跡市町 632 番地

電話番号：0855-56-2246

メールアドレス：atoichi@gotsu-area-netowork.net

学校のホームページの URL：<http://www.gotsu-area-network.net/atoichi/>

【研究課題， 研究内容等】

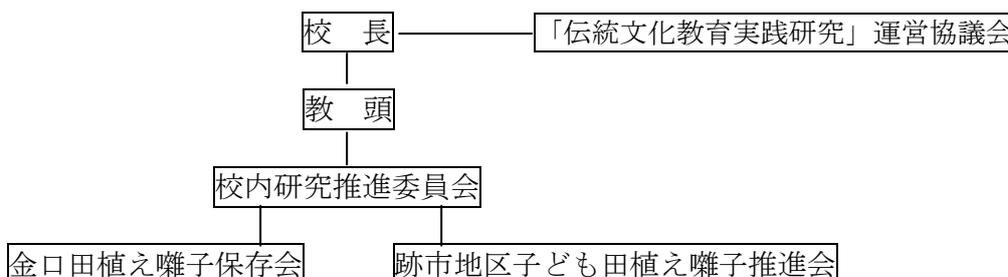
1 研究課題

跡市が大好きな子どもを育てる教育課程の編成 ～「花田植え (金口田植え囃子)」の指導計画の見直しを通して～
--

2 研究課題設定の理由

島根県が掲げる「ふるさと教育」の推進という方針を受け、伝統文化教育を学校の教育課程に位置付けて、地域の「ひと・もの・こと」を活用しながら金口田植え囃子 (花田植え) に取り組むことにより、跡市が大好きな子どもを育てることを目指した。

3 研究体制



※ 運営協議会は島根大学教授，県文化財保護審議会委員，跡市地区子ども田植え囃子推進会長，実践研究校校長からなる。

4 2年間の主な取組

平成 22 年 度	4月～5月	花田植えに向けての学習会 (22日)，練習会 (4月22日～5月7日)
	5月	花田植えの開催 (9日) 伝統文化教育実践研究連絡協議会 (東京) 校長参加 (26日) 連絡協議会報告，2ヵ年の研究計画の確認 (31日)
	9月	総合的な学習の時間の全体計画提案，審議 (6日)
	10月	総合的な学習の時間の活動計画案提案，審議 (18日)
	11月	学習発表会に向けての練習 (9日～18日) 伝統文化教育実践研究運営協議会の開催 (10日) 学習発表会で保存会の皆さんとともに発表 (21日)
	2月	先進校視察 (仙台市立福岡小学校) 教頭 (17日)
	3月	総合的な学習の時間の全体計画，活動計画の見直し，中間報告書の作成
平成 23 年 度	4月	2年目の研究計画等の確認 (6日)
	4～5月	花田植えに向けての学習会 (21日)，練習会 (4月21日～5月6日)
	5月	花田植えの開催 (8日) 伝統文化教育実践研究連絡協議会 (東京) 教頭参加 (23日)
	6月	連絡協議会報告，今後の指導の在り方について再検討 (6日)
	9～10月	江津市小中音楽会に向けての練習 (29日～19日)
10月	江津市小中音楽会で子どもだけで発表 (20日)	

平成 23 年 度	11月	学習発表会で子どもだけで発表（13日）
	12月	伝統文化教育実践研究運営協議会の開催（5日）
	12月～1月	感謝祭に向けての練習（12月5日～1月19日）
	1月	感謝祭（22日）
	2月	実践の見直し，研究成果報告書の作成

5 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

(1) 全体計画及び指導計画の見直し

- ・ 全教職員で検討を重ね，総合的な学習の時間及び特別活動の全体計画及び指導計画の見直しを図り，金口田植え囃子（花田植え）に係る学習，練習，発表などの活動を教育課程に明確に位置付けた。

(2) 学校が核となった伝統文化の継承のための仕組づくり

- ・ 「花田植え」の練習開始前に田植え囃子伝承者を招き，田植え囃子の歴史や伝承者の思いを学ぶ活動を行った。
- ・ 田植え囃子伝承者の指導を受けながら技能の向上を図り，児童だけで田植え囃子の発表ができるようになることを目指した学習を取り入れた。
- ・ 12月以降，6年生が下級生に指導し，1月の感謝祭に下級生だけで発表できるようにするための学習を取り入れた。
- ・ 花田植え開催前に学校から地域へ呼びかける等して，中学生，高校生，大学生等の卒業生を花田植えに積極的に受け入れた。

【研究成果と課題】

1 成果

- ・ 田植え囃子（花田植え）の教育課程への位置付けが明確になった。
- ・ 児童だけで田植え囃子を発表できるほど技能が向上した。
- ・ 上級生から下級生へと田植え囃子を受け継いでいく仕組をつくることで，田植え囃子伝承者の高齢化による指導者の減少に対応した。
- ・ 児童の感想に「私は跡市が大好きです。跡市小学校は地域の方と一緒にたくさんの行事をすることができるからです。」等が見られ，「ふるさとへの誇り」や「ふるさとを愛する心」が育まれていることがわかった。また，感謝祭後の児童の感想に「地域の方の中に，目に涙を浮かべて喜んでくれた人がいて，とても嬉しかったです。」等があり，児童と地域の方との「人間関係の深まり」も見られた。
- ・ 児童の地域の一員としての自覚が高まり，地域行事への参加が増えた。
- ・ 花田植えや学習発表会等の学校行事への保護者や地域の方々の参加が増え，アンケート等でも学校の取組に対して高い評価をいただいた。
- ・ 学校の地域の核としての機能が高まり，役割が明確になった。

2 課題

- ・ 田植え囃子伝承者の思いや田植え囃子の意味等への深い理解にまで至っていないこと。
- ・ 田植え囃子伝承者の高齢化による指導者の減少。

【研究成果の意義等】

- ・ 学校行事を地域行事と結びつけることで，過疎化が進行する地域に活力を与えることができる。
- ・ 児童だけで発表したり，技術を継承したりする仕組を確立することで，伝統芸能への関心，活動への意欲が高まり，「ふるさとを愛する心」が育成される。

【指定期間終了後の取組】

- ・ 2年間の取組を見直しつつ，学校内にできた田植え囃子継承の仕組を生かして，今後も継続的に「ふるさとを愛する心」の育成を目指していきたい。